

第4学年 道徳学習指導案

- 1 主題名 誰に対しても公平に
内容項目 C- (1 2) 公正, 公平, 社会正義
教材名 「となりのせき」(出典:東京書籍「新しい道徳 4」)

2 主題について

(1) 主題設定の理由

公正、公平とは、誰に対しても分け隔てなく接することである。人間関係を円満にするためには、誰に対しても公正、公平な態度で接することが重要である。

本主題における内容項目 C「公正、公平、社会正義」は、中学年において「誰に対しても分け隔てをせず、公正、公平な態度で接すること」と示されている。中学年は、仲の良い友達が確立されていき、次第にグループが出来始める年頃である。気の合う友達ができることで、悩み事を共有し合ったり、より楽しく遊んだりすることができる反面、仲の良い友達とそうでない友達で態度を変えてしまう児童も少なくない。人は、自分と異なる感じ方や考え方、多数ではない立場や意見などに対し偏って見たり接したりする弱さを持っている。それが原因で、いじめに発展してしまうことがあるのも現実である。

児童一人ひとりが豊かな生活を送るためには、そのような弱さを乗り越えて、自らの正義を愛する心を育てることが必要である。その上で、法やきまりと同様に、自分の不公平さを許さない心を育み、集団や社会の一員として誰に対しても分け隔てなく公正、公平に関わろうとする児童に育てたい。

(2) 教材について

本教材は、学級の席替えで苦手だと思っていた友達と席が隣になった主人公が、相手に対して不公平な態度を取ってしまい、やがて相手への理解を深めながら、自分の取った態度が正しくなかったことに気付いていく教材である。主発問を通して児童の本音を引き出し、児童の正直な気持ちで活発な話し合いができるようにしていきたい。児童の本音を引き出すために、ももがたけしに抱いていた苦手な感情に共感させることが大切であると考え。相手に関係なく、自分が公正・公平に他者と関わることができるかどうか真剣に考えることで、例え自分が公正・公平な態度を取れないと判断したとしても、公正・公平の大切さには気付くことができるような授業展開にしていきたい。

3 研究の重点との関連

○展開後段で児童の本音を引き出す手法

①自分の本音で話し合う「本音タイム」

道徳の授業で一番大切なことは、授業を通して価値についての考えをどう深めたかである。しかし、児童の本音を引き出せないまま終わることも少なくない。そこで、本学級では、主発問を受けて自分の考えを書く時間と発表する時間を「本音タイム」と呼び、児童の意識改革を目指した。本学級では、授業中に必ず本音タイムを設け、自分が価値に対してどのような考えをもっているかを話し合っている。道徳の授業では、すべての時間に本音で話してほしいことは大前提であるが、より意識を高めるために「本音タイム」と名称している。児童の本音が出てくることで価値について考えが深まり、今後の生活により生かすことができることに繋がると考えている。

②本音タイムの話し合いを活性化させる手法「サークル対話」

サークル対話とは、本音タイムで話し合う際に用いる手法である。児童が椅子に座って内側を向き、互いに見合う形になるので、お互いの顔が見られる状態になっている。話し合い時間を充実させるためには、児童の発言の時間の確保と雰囲気づくりが必要だと考える。時間の確保といっても、15分や20分も話し合いの時間を取れるわけではない。限られた時間の中で、より多くの児童が発言する時間を確保するために「サークル対話」という手法を用いる。児童は、4月より学級活動や道徳でサークル対話を経験してきており、慣れや親しみがあるため、本時でもこの話し合いの手法を用いていきたいと考えた。サークル対話は、教師が指名したり、起立させたりすることをしないため、より多くの児童が発言することができる利点がある。また、円になり、自分たちで話し合いを進めることで、普段の一斉授業よりも話しやすい雰囲気が作られ、話し合いが活性化される点もよい部分である。しかし、子どもたちに話し合いを任せる反面、深く話し合わせたい発言だったとしても、子どもたちの関心がなければ話し合いが進んでしまうことも考えられるが、そのような場面については、教師が後でその発言に触れ、価値について深められるようにしていきたいと考えている。

○価値について考えを深めるための手法

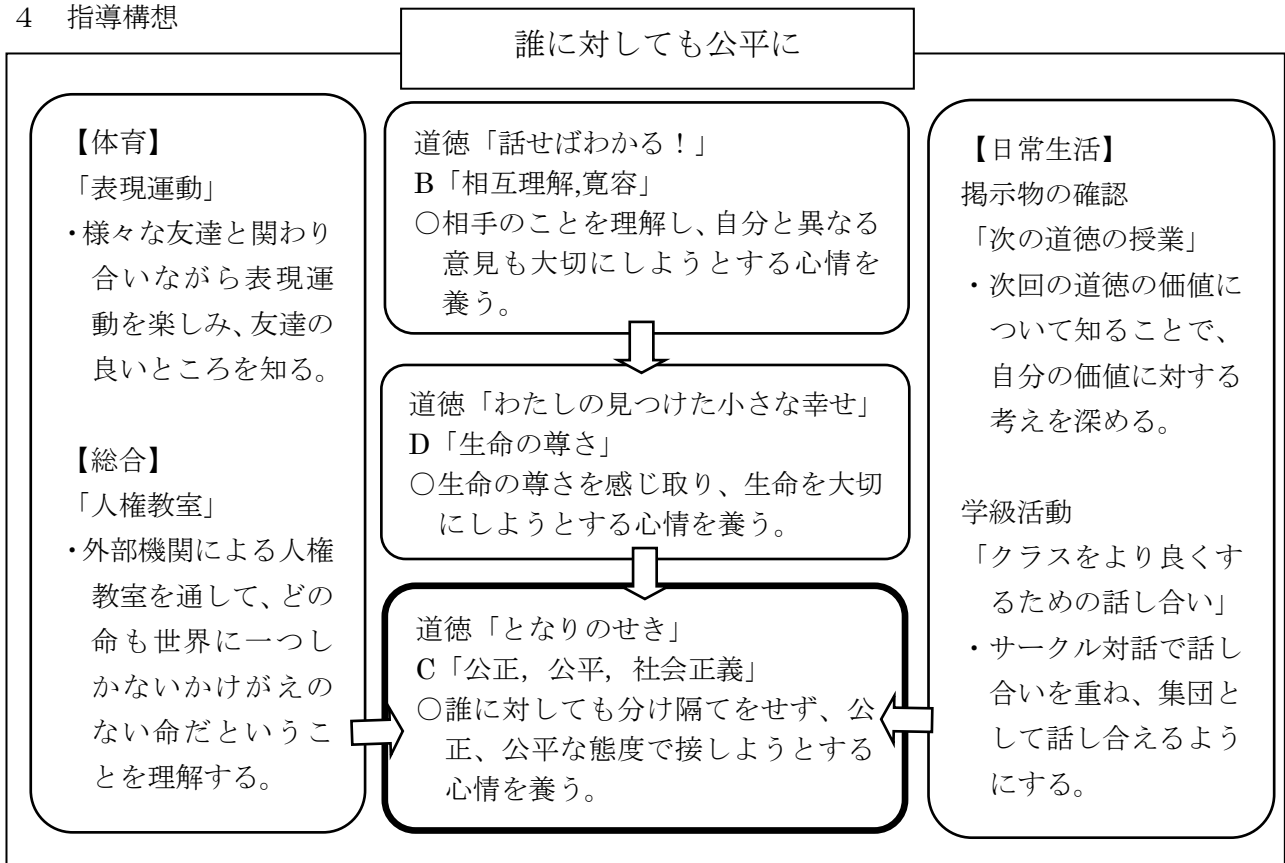
①自分の考えを深めるための「次の道徳の授業」

通常行われる授業の多くは、学ばせたい価値について、その内容を事前に知らせておくことはない。しかし、事前に学ぶ価値を知ることができれば、その価値について自分の考えを深める時間が生まれることになる。価値に出会う日を早くすることで、児童の話したい意欲が高まり、よりよい話し合い活動に繋がるのではないかと考えた。そこで、教室内に「次の道徳の授業」というA4サイズの掲示物フォルダーに、「次の道徳の授業」を掲示し、児童が教室内で過ごしていれば自然とその価値について考えられるような環境を作った。日常生活の中で、学ぶ価値について考えを深めていけば、自分の考えを深めた状態で授業に参加できるのではないかと考えている。また、その掲示で知らせた価値の文章を道徳の授業の導入や終末の発問で活用することを意識して、授業づくりに取り組んでいる。

②役割演技

本時の役割演技では、「もし自分がももの立場だったらどのような態度をとるか」を考えさせ、その態度を役割演技させることとしている。不公平な態度で接する友達を見ていた周りの人の気持ちを考え、不公平な態度が周囲に与える影響を感じられるように指導していきたい。また、時間があれば公平な態度を取れないと考えた児童が、公平な態度を受けた時にどのような気持ちになったか扱って、誰とでも分け隔てなく関わることの大切さに気付かせたいと考えている。

4 指導構想



5 本時の指導

(1) ねらい

誰に対しても分け隔てをせず、公正、公平な態度で接しようとする心情を養う。

(2) 展開

過程	学習活動と発問 (○)	教師の支援 (○) 評価 (☆)
導入 3分	1 席替えについて、自分の考えを発表する。 ○席替えは好きですか？ ・仲のよい友達と一緒にになれるかもしれないから好き。 ・誰と一緒にの席になるかわからないからどちらでもない。	○児童の日常生活の話題から導入に入ること で、教材に入りやすいようにする。 ○好きな理由や苦手な理由を尋ね、席替えは誰 と隣になるかわからないことを知らせる。
展開 前 段 7分	2 教材「となりのせき」を聞き、登場人物 の心情を理解する。 ○ももさんはどのような気持ちだったの でしょう。 【ももさん】 ・みち子さんと一緒にの席になりたかった。 ・たけしさんと一緒になって嫌だ。 ・不公平な態度をとったことを少し後悔した。 【たけしさん】 ・ももに腹が立つ。	○登場人物の心情を理解するために、黒板上 で ○ももさんの心情をより理解させるために、た けしさんのことが苦手だったことを確認す る。 ○ももさんが不公平な態度を取ったことを後悔 していることを確認し、公平な態度の必要性 について考えさせる。

<p>展開後段 25分</p>	<p>3 自分が主人公の立場だったらどのような態度をとるか考え、自分の考えをノートに書き、話し合う。</p> <p>◎あなたが主人公だったら、どのような態度を取ったと思いますか？（本音タイム）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下を向いて何も言わない。 ・嫌な態度をとってしまうと思う。 ・みち子さんの方を見て悲しい顔をする。 ・たけしさんによろしくと言う。 	<p>○本音タイムでは、よいことや悪いこと、どちらの考えでも、自分の気持ちを正直に書いたり話したりする時間だということを確認する。</p> <p>○それぞれの児童が座ったまま全員の顔が見られるように円の形になり、サークル対話で話し合いをさせる。</p> <p>○児童主体のサークル対話にすることで、深く話し合うことができない可能性があるため、サークル対話が終わった後、発言を想起させ、価値について考えを深められるようにする。</p> <p>○「下を向いて何も言わない」や「みち子さんの方を見て悲しい顔をする」等の意見が多く出た場合、「みち子さん」と隣の席になった場合でも同じ態度を取るか問い、それは公平な態度なのか考えさせる。</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>本音タイム→ノートに自分の考えを書いたり話したりする時間</p> <p>サークル対話→自分の考えを発表したり、友達の考えを聞いたりする時に用いる手法</p> </div>	
	<p>4 公平にできないと考えた児童が役割演技を行い、不公平な態度が周囲に与える影響について考える。</p> <p>演者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インタビュアー：教師 ・もも役：児童（公平にできない） ・たけし役：教師 ・ギャラリー：見ている児童 	<p>○不公平な態度を受ける役は担任が行い、児童が傷付くことのないよう配慮する。</p> <p>○役割演技を見ている児童は、その場にいる人になることを伝え、不公平な態度を見た時の気持ちを感じさせる。</p> <p>○不公平な態度が周囲にも影響を与えることに気付かせ、公平な態度を取る大切さについて考えさせる。</p>
<p>終末 10分</p>	<p>5 今日の学習を通して、考えたことや感じたことを書き、発表する。</p> <p>○今日の学習を通して、考えたことや感じたことは何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰に対しても同じ態度を取りたい。 ・自分は人によって態度を変えてしまうことがあるので、態度を変えないように意識したい。 ・不公平な態度は、周りの人を嫌な気持ちにさせるので、公平な態度を取りたい。 	<p>○本音タイムや役割演技を通して考えたことや感じたことを伝え合うことで、ねらいとする道徳的価値に迫れるようにする。</p> <p>☆公正、公平の大切さについて、自分の思いや考えを話し合い、誰に対しても分け隔てをせず、公正、公平な態度で接しようという意欲をもつことができたか。</p>

(3) 板書計画

となりのせき

○席替えは好きですか？

- ・仲のよい友達と一緒にになれるかもしれないから好き。
- ・誰と一緒にの席になるかわからないからどちらでもない。

○ももさんはどのような気持ちだったのでしょうか。

腹が立つ

たけし ⇄ もも

嫌だ
冷たい態度を取ってし
まいはずかしい

◎あなたが主人公だったら、どのような態度を取ると思いますか？

- ・下を向いて何も言わない。
- ・嫌な態度をとってしまうと思う。
- ・みち子さんの方を見て悲しい顔をする。
- ・たけしさんによろしくと言う。

○今日の学習を通して、考えたことや感じたことは何ですか。

- ・誰に対しても同じ態度を取りたい。
- ・自分は人によって態度を変えてしまうことがあるので、態度を変えないように意識したい。
- ・不公平な態度は、周りの人を嫌な気持ちにさせるので、公平な態度を取りたい。

※ドームで授業を行うため、ホワイトボードを2枚使用する。

6 本時の評価

☆公正、公平の大切さについて、自分の思いや考えを話し合い、誰に対しても分け隔てをせず、公正、公平な態度で接しようという意欲をもつことができたか。(ノート、発言から)